

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104175
法人名	有限会社 渡辺
事業所名	グループホーム ひかりの丘
訪問調査日	平成 22 年 3 月 10 日
評価確定日	平成 22 年 4 月 2 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4670104175
法人名	有限会社 渡辺
事業所名	グループホーム ひかりの丘
所在地	鹿児島市西坂元町6番4-1 (電話) 099-248-1116

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目6番7号		
訪問調査日	平成22年3月10日	評価確定日	平成22年4月2日

【情報提供票より】(平成22年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 17 人, 非常勤 3人, 常勤換算	18.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての,	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	19,500 円 (管理費)
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さくらクリニック ・ 池ノ上クリニック ・ 安田歯科医院
---------	------------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市の南州公園近くにあるホームからは、桜島と錦江湾が一望でき、城山の木々の様子からは季節の移ろいが感じられる。運営者自ら親の介護経験を活かし、人から人、心から心を大切に真剣に利用者に向き合う介護を目指し、職員も利用者へ寄り添い共に楽しむことを心がけている。運営者は、職員には利用者との精神的交流を持つ時間を作れるようにと介護資格を持つ調理師と、利用者の健康管理の為に看護師を職員として配置することで、利用者と家族の満足を得ている。開設5年目を迎え、職員も定着し地域にも周知されこれからは楽しみなホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での改善課題は職員に報告し、話し合い改善に取り組んでいる。地域密着型サービスとしての理念では、今までの理念の他に地域との関わりを謳ったものを加えている。評価の意義の理解と活用では、自己評価をユニット毎に行い、責任者を中心に職員の意見を聞いてまとめている。栄養摂取や水分の確保では、すぐに水分摂取量のチェックを行い栄養士からのアドバイスを受けるなど改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニット毎に、1階は管理者、2階は介護主任を中心にして、職員の空いている時間帯に意見を聞きながらまとめている。多くの職員の意見を聞くことで、改善すべき課題が見えてくるなど、ケアの振り返りと気づきになっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は2ヶ月に1回開催するようにしているが今年度は5回に留まっており、地域包括支援センター職員の出席も2回だけとなっているので、今後も市担当者へ出席を依頼して頂きたい。会議の出席者は、家族代表や町内会長、民生委員3人、苦情相談の第三者委員であり、ユニット毎での利用者の状況報告後に意見交換をしている。インフルエンザ情報や町内の行事情報を頂き、サービスに活かしている他、家族からの感謝の言葉は、職員の励みとなっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が意見や苦情を表せる機会は、運営推進会議や意見箱、第三者委員の苦情相談窓口、面会時や電話等である。面会時には、家族からの意見や要望を言ってもらえるように努め、職員の名前がわからないという意見を頂き、顔写真を玄関に掲げる予定となっているなど、話し合い運営に反映できるようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、総会や話し合いに管理者が参加してホームを理解してもらえるように努めている。近隣住民との交流にも努めており、災害時の協力もお願いしている。利用者は小学校のバザーに参加したり、日本舞踊や三味線、大正琴等のボランティアに来てもらったり、専門学生の職場体験の受け入れなども行っている。また、地域の介護相談も行うなど交流に励んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、いままでの理念の他に地域との交流を積極的に図り、地域のネットワーク作りに努めることを謳ったものを付け加えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や廊下に掲げ、日常のケアの場面でも確認できるようにしている他、職員会議などでも理念について共有できるように検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板や民生委員からの行事情報を得て、利用者が参加できるものを検討中であるが、管理者は集会に出席しホームのPRと共に地域の介護相談にも応じるなど交流に努めている。利用者が小学校のバザーに参加したり、踊りや三味線、大正琴などのボランティア、学生の職場体験などを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の改善課題は、外部評価終了後に職員全員で話し合い、改善に取り組んでいる。自己評価はユニット毎、1階は管理者2階は介護主任を中心に、職員の空いている時間を使い意見を出してもらいまとめている。職員は、評価を通して改善の課題が見えてきたと共に、ケアの振り返りや気づきにもなっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は家族代表、町内会長、民生委員3名、苦情受付第三者委員、地域包括職員が出席して開催している。事業所の状況報告後に意見交換を行っている。インフルエンザ情報や行事情報を得ることでサービスに活かせるようにしている。	○	昨年度は開催が5回に留まっており、その中でも行政担当者が出席したのは2回であるため、今後も継続して出席依頼をされることを希望します。

鹿児島県 グループホーム ひかりの丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生保担当者が訪ねて来られ情報交換、相談を行っている。また、年に1回、介護相談員の受け入れも行いサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ひかりの丘通信を発行し、一月の行事の様子などを記載し写真などを載せ、利用者一人ひとりのメッセージを職員が記入して送付している。また、金銭出納帳も毎月コピーし、同封すると共に、面会時には出納帳の確認をお願いしサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会がない為、行事への参加を案内しているが、家族の出席が少ない。面会時等に意見や要望を頂けるように配慮しており、家族から「職員の名前がわからない」という意見を頂き、玄関に顔写真を貼る準備ができています。また、事故報告後には、全職員で共有し話し合い解決に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職も少なく安定しており、ユニット間の異動もないため馴染みの職員による介護がされている。調理師3名は、勤務によってユニットを行き来しているが、夜勤専門の職員も固定している。運営者は、職員の抱えている問題を把握し、話し合い離職を抑えるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、職員の経験と立場や希望に合わせて受講する機会を作っており、研修報告もミーティング等で行っている。事業所内研修は、ユニット合同で必要に応じた内容の研修をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野地区GH連絡協議会に加入し、講演会や交流にも参加している。職員は個人的に他のホームの見学に行ったりしており、事業所としての相互訪問などの機会は検討中である。	○	職員が他のホームに見学に行ったり、職員との交流を行うことで自分のホームの良さを知る他、良きアイデアを取り入れるなどサービスの質の向上に期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族に見学してもらっているが、家族だけの時には施設や病院へ出向いて本人との関係を築くようにしている。また、家族や兄弟、親族からの情報を集め入居後の対応に活かし、利用者が不安にならないように職員が寄り添い、観察を中心にケアを行っている。入居当日は、家族にしばらくいてもらうなど協力をもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と生活を共にする中で、昔の体験を聞いたり、生活の知恵を教してもらっている。時には、利用者が「お茶を飲まんね」と気遣ってくれたり、洗濯物たたみをしてくれるなど、喜怒哀楽を共にしながら支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1階は直接思いを伝えられる方が多く、利用者の自己決定を尊重している。2階は利用者とのコミュニケーションから少しずつ聞き取り、いくつかの選択肢を与えて決定してもらうなど工夫している。把握した気づきは、個別の生活記録に記載され全職員が共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会の家族にケアプランを見せて要望を聞き取り、遠方の家族には電話で確認してプランに反映させると共に、ケア会議での職員の意見やミーティング、個人の生活記録からの気づき、往診時の主治医の意見を反映させた介護計画書となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは毎月行い3ヶ月に1回は見直しをしている。急変時には家族を交えたケア会議を行い方向性を確認し、身体的内容は主治医の意見を優先するなど新たな介護計画を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関による24時間対応と往診、看護師を職員として配置し健康管理を行っていると共に、病院受診にも付き添っている。特別な外出支援として、絵画展や墓参りなどにも対応し柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの希望するかかりつけ医としている。定期健診や専門病院には看護師リーダーが付き添い、適切な医療が受けられるように情報提供している。変化があった場合には家族に電話で連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については契約時に家族に説明し、看取りの指針も作成している。今までに看取りの経験はないが、ぎりぎりまでのケアをおこなっており、家族や主治医と話し合い方針を共有しながら支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は敬語の使い方、命令口調や見下す態度、ため口等について徹底して指導している。職員の入職時には守秘義務についての誓約書を交わし、普段から口外しないことを伝えている。記録物についても適切な管理が行なわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が直接希望を伝えられる場合には、イルミネーションを見に行ったり、墓参りやドライブなどを行う他、週3回コップ1杯の晩酌を演歌を聴きながら飲むこと、毎日みかんを1個食べるなど、利用者一人ひとりの希望に沿えるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は力量に応じて、お盆拭きや後片付けを手伝っている。食べることが楽しみの一つであるため、献立は利用者の希望と旬のものを中心に調理師がたてている。料理は品数が多く、目でも楽しめるように工夫している。また、時には趣向を変えて出前や外食なども楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回対応し、職員も4人体制としている。入浴中はコミュニケーションがよくできる時間であり、本音が聞けるので職員も利用者も楽しみの一つである。入浴拒否される方には、「風呂」という言葉を使わずに誘導するなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の役割は「させられる」という言葉が多いため無理強いせず、手伝うと言われた時に、洗濯物干し、たたみ、テーブル拭きなどをしてもらっている。楽しみや気晴らしは、職員も一緒に歌やリズム体操などのレクリエーションを楽しみ、外食、弁当持参の遠足、毎月の行事などで気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所は坂道であるため散歩することは少ないが、買い物やドライブ、遠足、外食など希望に沿って行っている。また、2階の利用者は歩行が困難な方が多いので、食事で気分転換を図ってもらうように、一人用のテーブルで好みの食べ物を提供するなど工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のチャイムがなるが、日中は鍵をかけていない。外出傾向の利用者を把握し見守りをおこなっている。利用者が一人で外出した場合には、近隣住民や警察から連絡してもらえるように協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の訓練は消防署指導の下に避難誘導訓練、消防設備点検を行っている。夜勤専門職員も全員参加し、近隣の協力も得られるようお願いしている。また、運営推進会議を通じて町内会と協力し地区の防災マップ作りを検討中である。		

鹿児島県 グループホーム ひかりの丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の接種量をチェックし記録している。栄養のバランスについては、管理栄養士を招いて研修を行い、指導や助言をもらっている。食事形態も一人ひとりに応じて、軟らかくしたり一口大にするなど対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい雰囲気にするため、壁紙はクリーム色、ソファは赤色にし、壁の絵画や飾られている花を季節ごとに替えている。廊下は広くゆったりとし、コルクボードには利用者との思い出の写真が貼られている。トイレは大きくゆったりとしているので、使用中の確認ができるようにランプが付く工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口に利用者の名前をひらがなで書いたフレームや暖簾が掛けられ、分かりやすくしている。居室はベット、タンスが備え付けだが、使い慣れたタンスやテレビ、大切にしている仏壇や家族の写真などが飾られそれぞれが居心地良く過ごせるように工夫している。		